



《現状把握》

国語の文章読解について課題が残る結果になっている。読書習慣が身に付いていないことに加え、文章の要旨を捉えて読むことが身に付いていない児童が見られる。そうした実態が、国語への関心の項目にも表れて、全国の平均を下回る結果になっている。授業改善に努めながら、学力アップタイムや家庭学習キャンペーンを活用して、文章の要旨を読み取る問題に繰り返し取り組ませていく。

また、算数においては、3学級4展開・3学級5展開の習熟度別指導の効果が表れてきている。今後は問題解決学習を基盤にした授業において、知識・理解の完全習得を目指して取り組んでいく。

《授業改善のポイント》

国語の読み解く力の育成に向けて、音読指導、ノート指導の充実を図る。また、表現力の育成に向けて読書科との関連も生かしながら調べたことを分かりやすくプレゼンする力を身に付けさせる。さらに、言語事項の定着に向けて、学び合いや伝え合いの活動を多く設定する。

算数においては、3学級4展開・3学級5展開の習熟度別指導の効果が表れてきている。さらに、知識・理解の完全習得を目指した授業改善を図る。授業の中で、自力解決をさせ、学び合いにおいてさらに理解を深められるようにさせる。東京ベーシックドリルの活用や補習教室で個別の支援を充実させる。

すべての授業において、主体的に取り組むような学習展開を目指し、めあてをもって学習しようとする向上心を育てていく。そのためにも、授業力を高め、学習スタンダードの徹底を図るとともに、学力アップタイムの更なる充実を目指していく。

《チャートの特徴》

国語、算数の調査項目で全国平均を上回る結果となった。

特に算数への関心、算数 A 知識 については、全国平均を大きく上回る結果となった。

一方で、学習習慣や生活習慣の項目で全国平均を下回る結果となっている。学校における学力向上のための取組に成果があったが、家庭での学習習慣や生活習慣の向上までには至っていない。家庭での学習習慣や生活習慣が確立することによって、さらに学力向上につながると考えられる。

《家庭・地域への働きかけ》

個人面談で、一人一人の学力について詳しく説明をしたり、1～5年生に学力調査を実施し、結果を共有し、学力向上への関心を高めたりすることで、家庭との連携を深めている。家庭学習キャンペーンや生活リズム向上週間などを設定し、最低でも学年×10分以上の家庭学習時間の確保や読書習慣の確立を促している。こうした働きかけを継続していく。